

【投信調査室コラム】

日本版ISAの道 その44

NISA で買っている投信は何? 最初の月(1月)は
日本株ファンドと REIT ファンドが中心。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA 最初の月(1月)の資金流入は 3000 億円規模で投信には 300 億円以上か。

2014年1月からNISAが始まって1カ月、NISA口座における商品別の残高や取引額等のデータにニーズが高まっている。日本全体をカバーしたデータが知りたい所だが、それはNISA推進・連絡協議会(事務局:日本証券業協会)による販売会社に対する調査結果発表を待つしかない。ただ、それはおそらく四半期(1~3月)経過した後で、中身も株か投信か(ETFかREITか)の様なものになりそうである。こうなると、メディアや投信評価機関などに期待がかかる。早速、2014年2月7日(金)付日本経済新聞朝刊が発表しており、そのごく一部を引用すると、次の通り。

それは「野村証券など大手5社とネット証券5社を独自に聞き取り調査、推計した。1月末までにNISA口座を開設した人数は10社合計で275万人。このうち、17%にあたる47万人がすでに取引を開始した。…(略)…。1口座当たりの平均投資額は大手証券の平均で71万円、ネット証券平均で53万円。これから推計すると合計で3000億円規模の資金が流れ込んだとみられる。投資信託にも資金が流入。不動産投資信託(REIT)に投資するタイプなど、やはり分配金が高いファンドが人気だ。…(略)…。投信では国際投信投資顧問の『ワールド・リート・オープン』、日興アセットマネジメントの『ラサール・グローバルREITファンド』などが上位に顔を出した。共通するのは毎月の分配金の高さだ。海外債券型の購入も多い。」(*URLは後述[参考ホームページ])。

「投資信託にも資金が流入。」と言うが、一体どの程度だろう。国内投信全体、日本の単位型及びETFを除く追加型投信(MMF等日々決算型を除く)の2014年1月における純設定(推計)は+1兆463億円と、2007年8月以来の大きな資金純流入だった。ここで仮に、2014年1月のNISA口座数を全口座数の「15%」とし、そのうち、「17%」が2014年1月に取引を開始したとすれば(*「15%」は2014年1月20日付日本版ISAの道その42、「17%」は上記記事~URLは後述[参考ホームページ])、NISA口座経由で投信に流入した資金は300億円近くになる計算である。先の記事にNISA口座は「3000億円規模」とあったことから、その1割近くとなり、やや少ない感じになる。だが、この資産にはNISA対象のETFが含まれておらず、特定口座・一般口座での解約もあり(*その資金をNISA口座で購入する場合もあり)、実際は300億円を上回る可能性が高いと思われる。

日本の投信の分類別月間資金純流出入(資金純流入の大きい順)

*単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。



2014/01/31

順位	分類名 (Morningstar Global Category)	資金 純流入 2014年1月 (百万円)	資金 純流入 前月 (百万円)	資金 純流入 2013年1年間 (百万円)	純資産 (百万円)
1	日本株	+355,791	-233,427	+1,237,293	8,147,038
2	不動産セクター株(REIT)	+164,079	+21,572	+1,479,879	8,275,973
3	ハイイールド債	+130,791	+46,182	+917,319	5,440,713
4	米国大型フレッド株	+96,994	+54,089	+738,419	1,339,108
5	その他オルダタイプ	+84,107	+12,746	+85,500	281,165
6	アセットアロケーション柔軟型	+75,914	+106,859	+365,887	589,042
7	米国債券	+71,679	+52,087	+654,977	1,182,969
8	グローバル債	+69,212	-65,579	-94,913	7,368,208
9	グローバル株	+57,844	-23,931	+848,409	4,631,572
10	日本債	+32,030	+21,783	+80,584	1,613,992
11	アジア株(除く日本)	+31,442	+16,977	+199,678	726,121
12	アジアハイブリッド債	+20,737	-20,649	-869,983	2,059,762
13	欧州大型株	+13,064	+74,888	+164,518	244,028
14	アセットアロケーション慎重型	+8,226	+1,288	+18,288	321,695
15	中国株	+5,731	-19,300	-210,944	290,273
16	多種オルダタイプ	+2,748	-7,888	-22,938	332,151
17	商品・バスケット	+1,063	-2,482	-4,200	65,281
18	通貨	+410	-898	+2,043	7,031
19	ターゲットデート2021-2045	+367	-98	+1,126	27,759
20	インフレ連動	+22	-316	-2,086	5,675
21	マーケット・ニュートラル	-151	+395	+526	20,323
22	アジア債	-260	-118	-3,570	14,506
23	ユーロ債	-757	-4,305	-39,497	106,145
24	ロング・ショート	-2,717	-5,219	-29,885	55,561
25	アセットアロケーション標準型	-5,917	-43,436	-234,754	1,169,663
26	CB	-6,109	-19,333	-127,489	353,967
27	インド株	-6,338	-14,774	-112,225	329,289
28	エマージング株	-19,572	-81,336	-95,649	1,764,345
29	日本マネー・プール	-32,056	-7,236	+39,178	51,652
30	アセットアロケーション積極型	-34,792	-117,529	-284,009	2,695,509
31	エマージング債	-67,287	-236,449	-600,200	6,130,151
	全31分類の合計	+1,046,297	-495,438	+4,101,280	55,640,667

(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

投信全体では日本株とREITが人気。

前頁に掲載したテーブル、国内投信全体の2014年1月における純設定について(合計は最も下方にある+1兆463億円)、分類を見ると、圧倒的1位に日本株ファンド、2位にREITファンド、3位にハイールド債ファンド、4位に米国大型ブレンド株ファンド、5位にその他オルタナティブ・ファンドとなっている。尚、その他オルタナティブ・ファンドは1月に関しては日本株ブルベア・ファンドのブルが中心となっているので、1位の日本株ファンドに近いものである。

もちろん、これは投信全体であって、NISAとは限らない。だが、個々の販売会社の発表するデータを見ていくと、たとえば、SBI証券は1月27日～31日に買付金額として「1～3位毎月分配型REITファンド、4位毎月分配型通貨選択型ファンド、5位日本株ファンド」、カブドットコム証券は1月6日～20日に買付金額(総合ランキング)として「1～3位毎月分配型REITファンド、4位毎月分配型通貨選択型ファンド、5位毎月分配型REITファンド」、岡三オンライン証券は1月24日～29日に「1位日本株、2位海外株・新興国、3位REIT」となっていたが、これは各社の投信全体のデータと近いものがある(URLは後述[参考ホームページ])。やはり金額的に見ると、投信全体の傾向がNISAの傾向に反映、つまり、既存投資家が従来通りの投資方針でNISAへの投資もしている可能性が高いと言うことであろう。カブドットコム証券は「従来から投資家の人気を集めているリートファンドとインデックスファンドが人気を二分。」とコメントしている。



より詳細に、トレンドを見るべく、国内投信全体の純設定を週次で見た。下記グラフの通りで、投信全体の純設定は1月31日週に+4486億円と、2013年3月29日週以来10カ月ぶりの大きな資金純流入となった。これを分類別に見ると、日本株ファンドが一番人気で、その他、REITファンドやグローバル債ファンド、ハイールド債ファンド、その他ファンドも人気となっている。その他ファンドは1月に関しては日本株ブルベア・ファンドのブルが中心となっているので、日本株ファンドに近い。

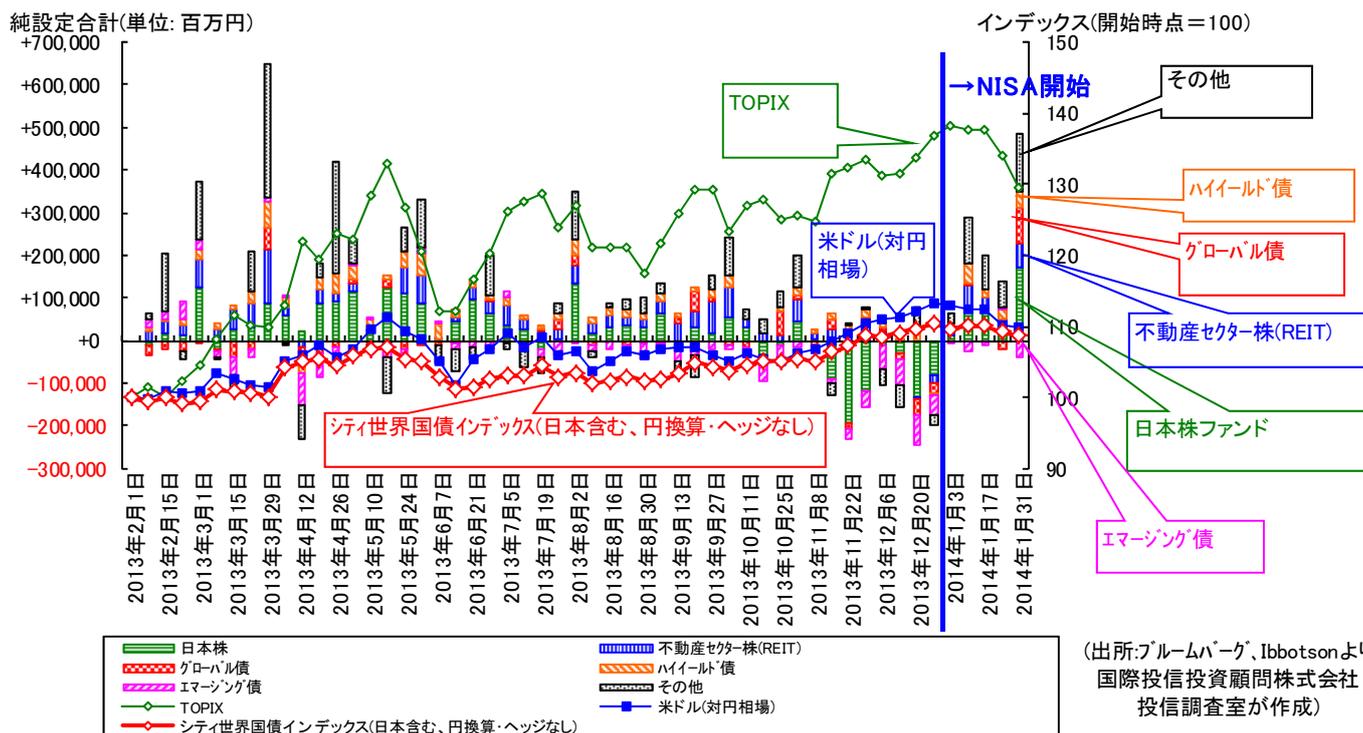
日本籍の国内投信の純設定(推計)の推移

(2013年2月1日～2014年1月31日、週次データ)

*国内投信…(単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本国内投信
週次・純設定



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより
国際投信投資顧問株式会社
投信調査室が作成)

NISA 向けでは日本株が一番人気だが、REIT やグローバル債、ハイールド債も人気。

前頁は既存投資家が従来通りの投資方針で NISA への投資をしているとみなし投信全体を見たこととなるが、「NISA 向けファンド」はどうだろうか？ 「NISA 向けファンド」とは、投資信託協会が言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考に(2014年1月8日付投信協会メールマガジン～URLは後述[参考ホームページ])、契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める、2013年11月末時点)の株式投信(ETFを含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンドと、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている(下記※1参照)。

※1: 2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンド…2013年4月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・繰上償還条件付・満期/償還付・毎月分配型・四半期分配型・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1～2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1～2回以外を除いている(*マネー・プールは年1～2回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2014年1月31日時点で434本となった。

「NISA 向けファンド」の純設定は1月31日週に+779億円と、2013年8月2日週以来半年ぶりの大きな資金純流入である(*NISA 口座以外を含む)。これを分類別に見ると、日本株ファンドが一番人気で、その他、REIT ファンドやグローバル債ファンド、ハイールド債ファンドが人気となっている。尚、その他ファンドは日本株ブルベア・ファンドのブルが中心となっているので、日本株ファンドに近い。

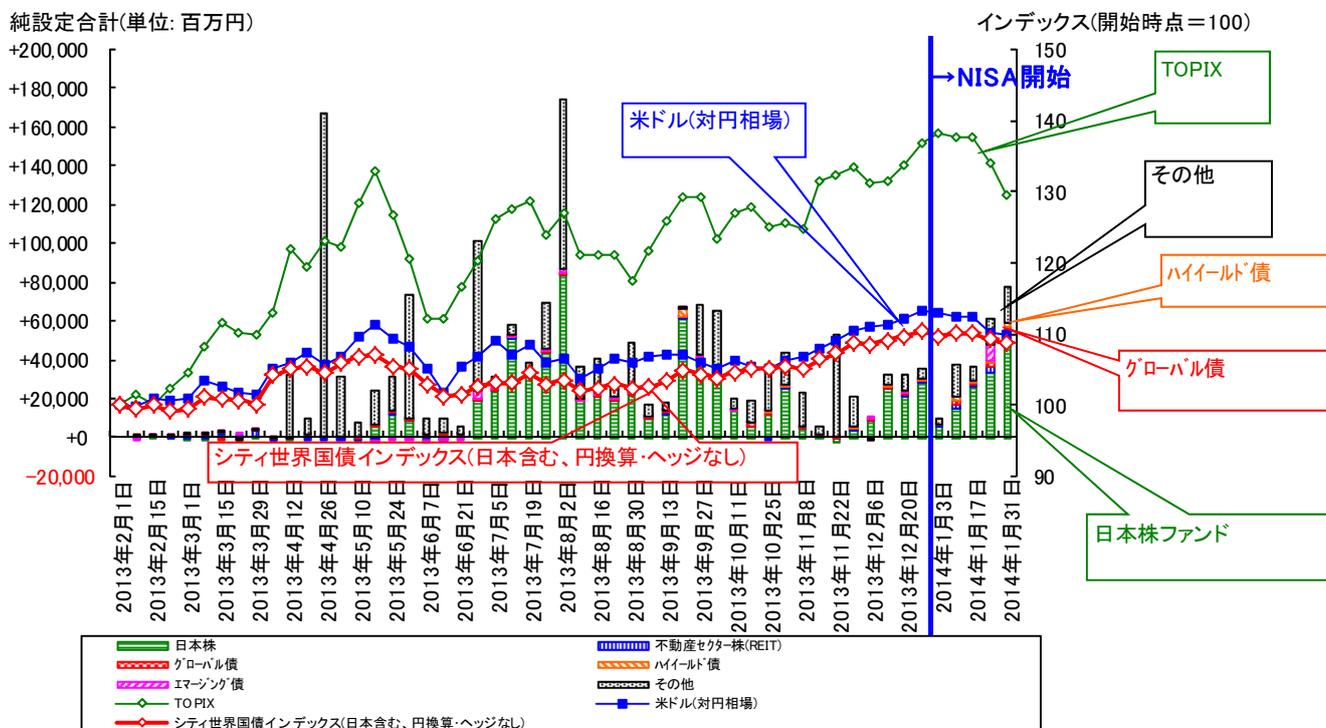


日本籍の NISA向けファンド(ETFを含む追加型)の純設定(推計)の推移
(2013年2月1日～2014年1月31日、週次データ)

*NISA向けファンド(ETFを含む追加型)… 2014/01/31 現在434本ある現存ファンドについて。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
週次・純設定



以上であるが、注意したいのは、2014年の最初の1カ月の話であり、先述した通り、NISA 口座数は期待以上のスピードで拡大していると言っても、まだ全口座数の「15%」程度で、さらに「17%」が2014年1月に取引を開始した程度である。加えて、一番人気の日本株は現物については昨年2013年12月にかけて個人が大幅売り越し、投信についても、先述テーブルに示される通り、昨年2013年12月に全分類中2番目に大きな資金純流出となっている(*2013年末の証券優遇税制廃止を

前に、優遇税率 10.147%を享受しようとする動きで解約が急増していた)。そして、英国の本家 ISA の様に国内株式ファンドには毎年の ISA 年度開始の月に増えると言う季節性もあるのかもしれない(2013 年 10 月 21 日付日本版 ISA の道その 32 ~URL は後述[参考ホームページ])。その意味で、予断を許さず、引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見て NISA の傾向を判断していきたいものである。

[参考ホームページ]

2014 年 2 月 7 日付日本経済新聞朝刊…「 http://www.nikkei.com/article/DGXNASGD0604S_W4A200C1EA1000/ 」、
2014 年 1 月 20 日付日本版 ISA の道その 42「NISA で何を買う? 2014 年最初の週は新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンドが中心で、既存投資家(投信全体)では日本株ファンドと REIT ファンドが中心のようである。」…
「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140120.pdf> 」、SBI 証券の各種ランキング…
「 <https://www.sbisec.co.jp/ETGate/> 」、カブドットコム証券の NISA 口座買付総合ランキング…
「 http://kabu.com/info/nisa/ranking_fund.asp 」、岡三オンライン証券の「NISA 開始 1 ヶ月アンケート」の調査結果…
「 <http://www.news2u.net/releases/120036> 」、2014 年 1 月 8 日付投信協会メールマガジン…
「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」、2013 年 10 月 21 日付日本版 ISA の道その 32「「本家」英国で、RDR 改革がもたらした IFA 数減少によって、ISA を中心に DIY 投資家が増えて投資の危機が進行中? ~最新の英国 ISA(ファンド)動向~」…
「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/131021.pdf> 』。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクの開発したものです。